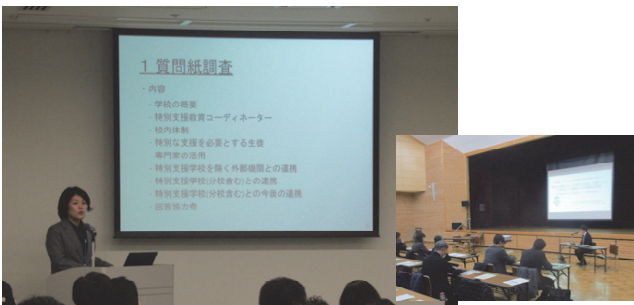




各地において地域実践研究の成果を報告（令和元年度）



静岡県における普及セミナーのインクルDB
体験コーナー（令和元年度）

＜令和2年度の予定＞
インクルーシブ教育システム普及セミナー 令和2年11月28日（土）
～国内外の取組から今後を展望する（仮題）～

＜リンク先一覧＞

- ・インクルーシブ教育システム推進センター
URL https://www.nise.go.jp/nc/about_nise/inclusive_center



- ・地域実践研究事業について



- ・地域実践研究事業報告書「地域におけるインクルーシブ教育システムの推進」
URL https://www.nise.go.jp/nc/about_nise/inclusive_center/region



- ・小冊子「諸外国におけるインクルーシブ教育システムに関する動向—令和元年度国別調査から—」

- ・インクルDB（インクルーシブ教育システム構築支援データベース）



URL <https://inclusive.nise.go.jp/>



「共生社会」とは？

- ・「共生社会」とは、これまで必ずしも十分に社会参加できるような環境になかった障害者等が、積極的に参加・貢献していくことができる社会である。それは、誰もが相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える全員参加型の社会である。このような社会を目指すことは、我が国において最も積極的に取り組むべき重要な課題である。

「インクルーシブ教育システム」とは？

- ・障害者の権利に関する条約第24条によれば、「インクルーシブ教育システム」(inclusive education system)とは、人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みであり、障害のある者が「general education system」(一般的な教育制度)から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、個人に必要な「合理的配慮」が提供される等が必要とされている。

連続性のある「多様な学びの場」

- ・インクルーシブ教育システムにおいては、同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に応える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備することが重要である。小・中学校における通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある「多様な学びの場」を用意しておくことが必要である。
- ・基本的な方向性としては、障害のある子どもと障害のない子どもが、できるだけ同じ場で共に学ぶことを目指すべきである。その場合には、それぞれの子どもが、授業内容が分かり学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身に付けていけるかどうか、これが最も本質的な視点であり、そのための環境整備が必要である。

平成28年4月、インクルーシブ教育システム構築に向けた地域や学校における取組を支援することを目的として、「インクルーシブ教育システム推進センター」を開設しました。地域や学校が直面する課題に応じた研究の推進、諸外国の最新情報の収集と交流、インクルーシブ教育システム構築を支えるデータベースの整備・情報提供等を行っています。



令和元年度地域実践研究員

教育委員会や学校、
関係団体との緊密
な連携・協働



国際シンポジウムでのディスカッション

地域実践研究の推進

インクルーシブ教育システムの構築に関する地域や学校の課題を、研究所と教育委員会が協働して推進する地域実践研究に取り組んでいます

地域実践研究とは

- 研究テーマごとに研究所の研究員、教育委員会から派遣された**地域実践研究員**による研究グループを組織して、研究活動を推進します。
- 地域実践研究員の派遣形態は、**長期派遣型**（地域実践研究員を1年間研究所に派遣）と**短期派遣型**（地域での研究を基本として、地域実践研究員を年間3回2日間ずつ研究所に派遣）の2つのタイプがあります。

地域実践研究のメリット

- インクルーシブ教育システム構築に関して、**地域や学校で課題となっている事柄の解決**につながります。
- 研究成果等を普及するフォーラムを研究所と共同で**地域で開催**し、研究成果やインクルーシブ教育システムの最新情報を提供することで、地域の**理解啓発を推進する機会**とすることが出来ます。
- 地域実践研究員（長期派遣型）は、研究所で実施している専門研修等の受講もできますので、**地域のインクルーシブ教育システムの推進に活躍する人材育成の機会**にもなります。

研究テーマ

- メインテーマ1：インクルーシブ教育システムの構築に向けた体制整備に関する研究
メインテーマ2：インクルーシブ教育システムの構築に向けた特別支援教育に関する実際研究

研究テーマ	
H2	地域におけるインクルーシブ教育システムの構築に関する研究
M1	インクルーシブ教育システム構築に向けた研修に関する研究
8	交流及び共同学習の推進に関する研究
2	教材教具の活用と評価に関する研究
M2	教育相談、就学先決定に関する研究
H3	インクルーシブ教育システムの理解啓発に関する研究
0	多様な教育的ニーズに対応できる学校づくりに関する研究
R	学校における合理的配慮及び基礎的環境整備に関する研究
0	インクルーシブ教育システムの理解啓発の推進に関する研究
M1	交流及び共同学習の充実に関する研究
2	

(M1:メインテーマ1 M2:メインテーマ2)

令和2年度は11県市から参画いただきます。



トゥインクルSUN
(インクルーシブ教育システム推進センターマスコットキャラクター)
[平成30年度地域実践研究員作成]

インクルーシブ教育システム普及セミナー等で、地域の取組・最新の情報を全国に発信



インクルーシブ教育システム普及セミナー

インクルーシブ教育システムの推進

諸外国の最新情報の収集と国際交流

諸外国の最新情報の収集・発信と国際交流を進め、インクルーシブ教育システムの構築に貢献します

国際情報

- 我が国の特別支援教育の取組や研究成果を海外に情報発信するとともに、諸外国の障害のある子どもの教育に関する政策等の状況を収集し、その調査結果を**国際シンポジウム**や**小冊子**、特総研ジャーナル等を通じて公表しています。
- 海外の大学・研究機関との交流**、研究職員の海外派遣、外国人研究者等の受入等を通じて国際交流を行っています。
- 独立行政法人国際協力機構（JICA）等の依頼により、**海外の教育行政担当者や学校教員等の視察・研修**を受け入れています。

シンポジウム等の開催

- 教育関係者等に諸外国の最新情報の普及を図るため、特別支援教育に関する**シンポジウム等**を毎年度開催しています。
- 令和元年度は、令和2年1月25日に、350名程の参加をいただき、「**子どもの学習のつまずきに速やかに対応する取組ーフィンランドの教育実践から今後を展望するー**」のテーマでNISE特別支援教育国際シンポジウムを開催しました。

情報発信・相談支援

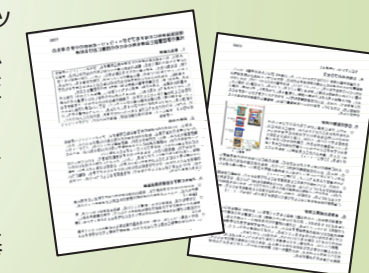
インクルDB（インクルーシブ教育システム構築支援データベース）の活用を普及・推進することで、インクルーシブ教育システムの構築に貢献します

インクルDBについて

- インクルDB**（インクルーシブ教育システム構築支援データベース）は、文部科学省の「インクルーシブ教育システム構築モデル事業」「発達障害の可能性のある児童生徒の多様な特性に応じた合理的配慮研究事業」において取り組まれた実践事例について検索できます。令和2年3月末現在、461事例を掲載しています。
- インクルDBは**子どもの実態**から、どのような**基礎的環境整備**や**合理的配慮**が有効かについて、参考となる**事例を紹介**しています。

インクルDBの活用促進

- インクルDBでは平成30年9月より、より活用しやすいようにするためにA4で2ページにまとめた事例を掲載しています。「**実践事例データベースⅡ**」というバナーからアクセスしてください。
- インクルDBの使い方についてはリーフレット（次ページ）や検索マニュアルをホームページ上に掲載していますのでご参照ください。（<https://inclusive.nise.go.jp>）
- インクルDBを活用した研修等**も掲載しています。参考にしてください。
- 心のバリアフリー学習推進会議の提言に基づき、**交流及び共同学習についての事例**も掲載しています。



実践事例データベースⅡの事例

